

JD Farag 牧師 中東アップデート 2017年12月3日公開

アメリカ大使館移転・ハワイで警報サイレン再開・聖餐式

今日の預言アップデートでは、神の預言時計におけるエルサレムの中心性について、お話ししたいと思います。その観点からみると、今の時間がどれほど遅いか、携拳がどれほど近いかが分かります。全て、核となる大きな預言は、エルサレムが中心になっている、と私は思っています。エルサレムは、過去も現在も、そしてこれから、永遠にイスラエルの首都です。私がこれを言うのは、次の理由からです。よく話題にしているエゼキエルや、シリアのダマスカスに関する預言、イザヤ17章といった、このような預言の終盤はエルサレムです。

ところで、木曜日のバイブルスタディーに参加されている方はご存知でしょうが、旧約聖書の至るところで、神はこの町を選んで彼の御名を置く、と宣言されています。そして、文字通り、ヘブル語の「シン」という形で置かれた。これは、わくわくする事実です。神の御言葉の中で、その御名が神の所有の証明として、この特定の、地上の一つの町に置かれました。その町とは、エルサレムです。だからそこは、エゼキエルやイザヤ17章のような預言の終盤となるのです。エルサレムに関する預言で、最もよく知られているのは、ゼカリヤ12章ではないでしょうか。1-3節をお読みしたいと思います。

*“宣告。イスラエルについての主のことば。——天を張り、地の基を定め、人の例をその中に造られた方、主の御告げ。——見よ。わたしはエルサレムを、その周りのすべての国々の民をよろめかす杯とする。ユダについてもそうなる。エルサレムの包囲されるときに。その日、わたしはエルサレムを、すべての国々の民にとって重い石とする。すべてそれをかつぐ者は、ひどく傷を受ける。地のすべての国々は、それに向かって集まって来よう。” (ゼカリヤ12:1-3)*

このエルサレムに関する、非常に重要な預言について説明します。神が言われているのです。「わたしが」神ご自身が、全世界をエルサレムに憑りつかれるようにする。酔っぱらうのです。全世界が、この一つの小さな国に憑りつかれ、さらには、よろめくのです。行った事のある方は、エルサレムがどれほど小さいかご存知でしょう。この一つの小さな町、エルサレムに、全世界が憑りつかれるのです。では何に、それほど憑りつかれるのか？エルサレムの何に、それほどよろめくのか？それは、彼らがそこを分断する事に、憑りつかれる。境界石を動かそうと必死になる。当時は、石によって境界線を定めていましたから。そして、神はこう言われるのです。

「誰であれ、エルサレムを分断し、切ろうとする者は、わたしがその者を切る。」「そこを切り離すなら、わたしがあなたを切り離そう。」「あそこは、わたしの町だ。あなたには、そんな事は出来ない。」「そこに触れるな。そんな事を考えてもいけない。」「しかし、あなた方はそれを考えるだろう。」「そのことに憑りつかれるだろう。」「そして、分断しようとするだろう。」「しかし、それをするなら、自分の責任で行いなさい。」「すべてそれをかつぐ者は、ひどく傷を受けるのだ。」「わたしが、あなたを傷つける。」「わたしが、あなたを切り、分断する。」「わたしが、あなたをひどく傷つける。」「エルサレムは、わたしの町だ」「わたしが御名を置いた、わたしの所有地。」「エルサレムはわたしのものであり、わたしがそれをわたしの民に与えたのだ。」「あなた方のものではない。」「あなた方は、それが自分のものだと言うが、それは違う。」「あなた方の主張は、正当なものではない。」

そして、全世界は、今こうして話している間にも、エルサレムに憑りつかれ、よろめいています。

とても簡単に言ってしまうと申し訳ないですが、エルサレムがニュースに上る度、聖書預言が現実のものとなって来ます。預言時計を、こんな風に描いてみてください。イスラエルは、預言時計の分針で、聖書預言の観点で、今が何時が、どれほど時刻が遅いのかを告げています。しかしエルサレムは、その預言時計の秒針です。それぐらい、聖書預言にとって、エルサレムは詳細で重要なのです。

次に、先週のニュースを追っておられた方なら、私がこれから何を話そうとしているのか、ご存知でしょう。つまり、アメリカ大使館のエルサレムへの移動の6か月間の延期についてです。それには、アメリカ大統領の署名が必要です。これは1995年に、当時の大統領であったビル・クリントンによって署名されたアメリカの法律で、アメリカ大使館、テルアビブからエルサレムへの移転を命じています。22年前のもので、我々には法律があって、その法律が、アメリカ大使館を現在のテルアビブからエルサレムへ移動させるように命じているのです。なのに何故、アメリカ大使館はテルアビブからエルサレムに移動していないのか？それは、その法律の中には、アメリカ大統領の署名があれば、この移転を延期し、遅延させる事が出来ると、という項目がある為です。それが、実際に22年間起こり続けて来た事です。毎年6月と、12月の6か月毎に。今日の今日まで、クリントンから始まって、ブッシュ、それからオバマ、そして最近ではトランプまでもが、6月にこの棄権書に署名しました。その為に、大使館はテルアビブにとどまったままで、法に従って、エルサレムに移転されていないのです。

そして、大事なのはこれです。今週、この6か月の期限がまたやってきます。そこで、トランプ大統領は、これをもう一度延期するかどうかの決断を、再び迫られています。しかしながら、今のこの時期、リスクはものすごく高く、延期しようがしまいが、エルサレムをイスラエルの首都であると、宣言する事には、危険が伴うのです。そして、今までに一度も宣言された事はありません。アメリカ合衆国は、エルサレムを首都として認識したことがない、と知っておくのは大切なことです。テルアビブです。だから、そこに大使館があるのです。これは、アメリカに限らず、世界中のどの国もエルサレムをイスラエルの首都として認めていません。

次に、先週の緊急速報を皆さんにご紹介します。どうかよく聞いてください。まずは、Arutz Sheva から。ウォールストリートジャーナルの報道を引用しています。

——アメリカ政権は、世界中にある多数のアメリカ大使館に、トランプ大統領は次の宣言を検討中だと通知した。「エルサレムは、分割することの出来ない…」——

これは、非常に重要な事です。ゼカリヤ12章を読んだばかりですね？誰もが分割しようとする、と。しかし、ここは分割できないのです。

——「エルサレムは分割できない、イスラエルの首都である。」と宣言して、同時に、アメリカ大使館のテルアビブから、エルサレムへの移動を延期する棄権書に署名する事を検討している。——

金曜日のThe Times of Israel が報じたのは、

——その発表が、彼の選挙公約である大使館のテルアビブから聖地への移動を遅らせる決断を、相殺するかも知れない。——

言い換えれば、実際、これはとても興味深く、ものすごく聡明な方法にもなり得るのですが、同時に、「エルサレムは、分割できない、イスラエルの首都である。」とアメリカ大統領が宣言すると言うのは、大使館の移動よりも、もっと大爆発を引き起こす可能性がある。他に適切な言葉が見つからないので、こんな表現で申し訳ないですが。その宣言だけで、です。続けて読みましょう。ご想像通り、それに関するアメリカ大統領の決断や宣言によって、それに反対する者達から、警告や脅迫が出ることは間違いありません。その証拠に、Ynet ニュースが、ヨルダンのアブドゥッラー2世の発言を引用しています。ところで、ヨルダンにはイスラエルと和平協議を結んでいます。エジプトも、です。Ynet を引用します。

——トランプの告知計画の噂は、ヨルダンの王アブドゥッラー2世の警告を引き起こし、彼は、アメリカ合衆国訪問中に、次のように言いました。「この時点での、アメリカ大使館のテルアビブからエルサレムへの移転は、パレスチナ、アラブ、イスラムに対して、悪影響になる。」さらに、彼は加えて言いました。「それは、2国解決策にとっても危険であり、また、テロリストが彼らのイデオロギーを広めるために、それに付け込んで、怒りや不満、絶望感を煽る事も有り得る。」——

次に、このThe Jerusalem Post の報道している、警告や脅迫にも、もはや驚きはしません。

——国連の全国団結の日に、パレスチナ人だけでなく、国連の 151 か国が【イスラエルのエルサレムとの繋がりを否認】に投票した。——

へえ。なら、誰のものですか。エルサレムがイスラエルのものでなければ、誰のものですか？記事を読んでみましょう。

——国連総会は、【イスラエルとエルサレムとの繋がりを否定】に、圧倒数で投票。これは、木曜にニューヨークで承認された、6つの反イスラエル決議のうちの1つである。——

6個ですよ！これは6個のうちの一つです。

——決議は、トランプ政権が、アメリカ大使館のテルアビブからエルサレムへの移転について、積極的に検討していると噂される中で持ち上がった。決議の内容は、「占領国イスラエルによる、いかなる行動も、聖地エルサレムに、イスラエルの法も司法権も政権も行使することは、違法かつ無効であり、法的効力は一切ない。従って、そこに正当性は全くない。」——

“占領国”ですよ。イスラエルが。これが決議です。記事は続きます。

——国連事務総長は木曜日、また次の件も承認。イスラエルの入植活動を失跡して、1967年前の境界線に戻すように命令した。——

6つのうちの2つ目です。補足的に付け加えると、それで結構です。1967年前に戻るべき、1967年よりずっともっと前の、もともとの境界線に戻るべきですよ。そうすれば、エジプト、シリア、私の出生地であるレバノン、ヨルダンも含まれますから。元々の境界線、国境、1967年よりずっと前に戻るべき、私はそれで構いません。私はそれに投票しますよ。

——この中には、イスラエルがシリアから奪ったゴラン高原からの立ち退きも含まれる。——

これは、神が、ゴラン高原をシリアからイスラエルに取り戻したのだ、と言っておきます。面白いのは、イスラエルは攻撃されるたびに、“彼らの地”をどんどん取り戻して行っているのですよ。もし、私がイスラエルなら、こう言うでしょう。「主よ。分かりました。これは良いかもしれない。どんどん攻めさせてください！」攻められる度に、さらに土地が戻ってくるのですから。「お前たちが攻めるたびに、我々は自分の国土を取り戻しているんだ。」「そして、我々が国土を取り戻したら、お前たちは、それを返してほしいと言う。」これに関しては、神が最終決定権を持っておられると思います。

——6つの決議のうち1つは、シリアによって支持され、イスラエルの継続するゴラン高原駐留を非難した。——

記事は続けて、次のように書いています。とても興味深いです。

——イスラエルは、シリア政権が自国民に化学兵器を使用し、その闘争によって負傷し、なんとか国境を越えてイスラエルに逃げてきた人々を、イスラエルが治療している最中に、この様な決議を提案している事の不条理さを言及した。——

皆さん、これについては一切耳にしていらないでしょう。これについて、ニュースで目にする事はありません。シリアの人々が、シリアを逃れてイスラエルに入って来ているのです。彼らは、イスラエルに入りたいのですよ。なぜかと言うと、イスラエルが彼らを受け入れ、治療するからです。ガラテヤ人への手紙で学んだ、警察と救急部隊の描写の通りです。彼らがイスラエルの病院に到着さえすれば、イスラエルが命を救ってくれる。その事を、彼らは知っているのです。面白いと思いませんか？皮肉中の皮肉です。

国連総会は、現在これの承認待ちです。今日は12月3日ですね。これを聞いてください。

——国連総会は、さらに10個の反イスラエル決議を、年内に承認するつもりである。——

10個です！つまり、2日毎に1つとか、そういう事です。2日半毎に1つ。2017年の終わりまでに、さらに10個の反イスラエル決議です。

では、シリアについて話しましょう。特に、戦略的な立場にあるゴランについて。我々と一緒にイスラエルに行った方は、あそこを訪れましたね？ゴランの国境のすぐ近くで、時にはシリアのダマスカスで起こっている戦闘の音が、その眺望位置まで聞こえてきます。

48時間の内に報道された、この緊急速報を、皆さんはご存知でしょうか？

——イスラエル戦闘機が、ダマスカスの外にあるイランの基地を攻撃した。——  
イランの基地です。The Jerusalem Post はこう告げています。

——過去に、イスラエルは、シリアとシリアの輸送車隊、軍事施設に対して攻撃を仕掛けた。——  
ちなみに、多数の攻撃です。100回以上です。そして、その理由は、

——シリアが、高性能な武器を、地元のイランの代理ヒズボラの手に移送するのを防ぐためである。——  
ヒズボラはレバノン内に居て、ものすごい活動をしており、大きく展開しています。イランの力によって、シリアとレバノン国内で、預言的な展開をしています。そして、それは先週お話しした通り、全てエルサレムが原因です。これは、イスラエムの終末論で、彼らのイスラムのメシア、マハディが到来するためには、エルサレムを占領しなければならないのです。そして現在、彼は来ることが出来ません。エルサレムを彼らが奪い取り、占領し、支配するまでは。

次に、シリアが“高性能武器”を移動させているというこの報道では、まずシリアが、それらを移動させるためには、その前に高性能武器を所有していたという事が前提になりますね？これは明白ですが、考えてみてください。シリアは、すでに高性能武器を所有しているのか？彼らが、すでに化学兵器を所有している事は、我々も知っていますね？では、彼らはそれらの化学兵器を、どのようにして入手したのか？もう一つの疑問は、もし彼らが化学兵器を持っているなら、彼らは、核兵器も持つようになるのではないかと？しかし、もう彼らは、すでに核兵器を持っているかもしれません。彼らは、このような高性能武器を、どこから入手するのでしょうか？用意は良いですか？

彼らはそれを、他でもない北朝鮮から得ています。良いですか？一つ、私ももっと頻繁に言うべきなのですが、これらは探せばちゃんと出てきますよ。「まあ先生！どこからそんな情報を得るのですか！」なんて目で、私を見ないでください。私が見つかるより、多分皆さんのほうが簡単に見つけれられると思いますよ。聖書に関しては、ベレヤ人のように、私が言うことに関して、事実かどうかを確認するために、皆さんもご自分で調べなければなりません。これは事実です。そして、これは流れを変えるものです。

「ちょっと待ってください。つまり、先生が調べたところによると、ものすごい情報を発見した。つまり、シリアは高性能武器を所有している。それも、それらは北朝鮮から得たものだ、と？彼らはどのようにして、それを行うのですか？」

それは一言、「イラン」です。覚えておいてください。この十数年の間、イランと北朝鮮は、非常に結託していて、非常に親密です。ものすごく親密です。しかも、よく考えてみると、彼らにはそれが必要なのです。なぜか？それは、北朝鮮は、絶対的にお金が必要だからです。彼らはそのお金をシリアに対する、こういった武器の販売と配送によって得ているのです。

ところで、これは何も新しい事ではありません。北朝鮮は、22年前の1995年からシリアと取引をしています。この年は、何の年でしたか？1995年、法が定められ、その直後に延期されましたが。1995年、シリアはスカッドミサイルを北朝鮮から入手しました。これは、ドキュメント化されているので、皆さんも探せば出てきますよ。ところで、これを調べるともう一つ出てくるのは、2007年、イスラエルによる核原子炉の破壊で、北朝鮮がシリア国内に建設していたものです。聞こえましたか？北朝鮮が、シリアにです。それも10年前に。北朝鮮が核原子炉をシリアに建設していたのです。シリアですよ！

これは、何も目新しい事ではありません。この関係、北朝鮮からのこういった武器の配給、輸出は、今から何年も前からずっとあったのです。

以前にも言ったと思いますが、人が北朝鮮を深刻に受け止めないで、ジュークにして笑っているのを見ると、私は恐怖で縮みあがるのです。私は北朝鮮を深刻に受け止めています。誰もが深刻に受け止めるべきだと思っています。特に、ハワイに住んでいる人なら、なおさらではないですか？そのために、感謝な事に、ハワイ州は、この北朝鮮からの脅威を深刻に受け止めて、冷戦時代の核攻撃警告サイレンの毎月の試験を、約30年ぶりに再会するそうです。金曜日の朝11時45分ごろ、今日の預言アップデートの準備をしていたら、毎月1日に鳴る警笛がなかったので、ああそうだと思っていました。そして次に、聞いた事もないような音が聞こえて来ました。皆さんも聞きましたよね？あれは全く違う種類のサイレンでした。もう、これで終わりかと思いましたが、まだだったようで。だから、また預言アップデートの準備を続けましたよ。それは、この試験の為だったんですね。初めての。私たちが聞いたのは、この警報サイレンだったのです。Ynet ニュースは伝えています。

——毎月の核攻撃警報サイレン試験が、ハワイで公的広報機関と連結して再導入。島の住民に、——

これは私たちの事です。ここ、よく聞いてください。

——警報を聞いたら、建物の中に入り、中に留まり、情報に耳を傾けるように。——

そうですか。この、Ynet ニュースの言葉を、差し迫るキリストの来臨に、少し中身を変えてみてもいいですか？

**「警告サイレンは、私たち全員に、急いでキリストの元に来て、キリストのうちに留まり、そしてキリストの来臨に、目を見張るようにさせる為のものである。」**

同感ですか？サイレンは鳴っています。同感ですか？目覚ましは鳴っています。

先週、最近のロシア、イラン、トルコの同盟について、「もし、これがエゼキエル38章の成就の始めでなければ、他に何かあるのか、わからない。」と私は言いました。今ではスーダンが加わり、近々リビアも加わりますよ。今週もまた、そのセリフを言いますよ。「現在、エルサレムについて、我々が目撃している事が、ゼカリヤ12章の成就の始めでなければ、他に何かあるのか分からない。」

今日は、ローマ13章で締めたいと思います。この警報を聞いてください。この11から14節の警報サイレンに、耳を傾けてください。パウロが書いています。

*“あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、このように行いなさい。あなたがたが眠りからさめるべき時刻が、もう来ています。” (ローマ13:11)*

目覚まし時計が鳴っています。止めないでください！今日の朝3時半に、私がしたように止めないで。なぜか？

*“というのは、私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからです。夜は更けて昼が近づきました。ですから、私たちは、やみのわざを打ち捨てて、光の武具を着けようではありませんか。” (ローマ13:12)*

目覚まし時計が鳴り、アラーム、警報のサイレンが鳴ったら、私たちは何かを脱ぎ、また別のものを身に着けますね？そうして準備をします。これと同じで、朝私たちは目覚めると、夜の服を脱いで、そして、ここでパウロが言っている、光の武具を着けるのです。

*“遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみの生活ではなく、昼間らしい、正しい生き方をしようではありませんか。主イエスを来なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません。” (ローマ13:14)*

ここでパウロが言っていることを言い換えれば、もう時間だ。もう時間が来ている。時が近づいている。もういい加減な事をしている時間はない。もう、飲んだりお祭り騒ぎしている時間はない。寝ている時間ではないのは確実だ。目を覚ます時間だ。目を覚まし、上を見て、頭を上げる時間だ。警報サイレンは鳴り響いていて、私たちの贖いは近づいている。私たちの救いは、これまでにないほどに近づいている。時が近づいているのです。そして、これまで一度も、主の御名を呼び求めて救われていない人にとっては、今日が救いの日です。

今日、聖餐に与る前に、短く、シンプルに、福音をお伝えしたいと思います。イエス・キリストによる救いの良き知らせを、救いのABCという形でお伝えします。これを毎週行う理由はたくさんありますが、主な理由の一つをお伝えしますと、それは、人々がキリストに立ち返っているからです。私たちのところには、文字通り、世界中から賛美の報告が届いています。人々が、イエス・キリストに立ち返って、救われているのです。福音が、子供にでもわかるほど、簡単だからです。

それから、もう一つ理由があるのです。それは、皆さんがイエス・キリストの福音をよく知って、皆さんも他の人に福音を伝える事が出来るようになる為です。皆さんは、牧師になる必要はありません。事実、私が牧師として学んだことは、時に、牧師でない人は、牧師では近づけないような場所に行く事が出来るという事です。分かりにくいですか？私は、牧師になってから、何かが変わったことに気づいたのです。牧師になる前は、聞いてもらえていた事が、牧師になるなり、聞いてもらえなくなった。私が牧師だと言うなり、人は「うう…」とひいてしまうのです。私はこれが嫌なのです。しかし、一般レベルの皆さんには、私以上に、様々な方面で機会があるのです。そして、私には絶対に耳を傾けなくても、皆さんには耳を傾けるという人が、皆さんの周りにはいるでしょう。だから、何らかの形で、これが皆さんにとって福音を伝える術になればと願っています。それから、福音を恥だと思わないでください。そして、福音を拒絶されても、落ち込まないでください。それは皆さんの責任ではありませんから。それは、皆さんのせいではない。敵は、私たちが福音を拒絶されることを恐れるように仕向け、そして成功しています。だから、私たちは一番肝心な部分を捨てて、福音を全く伝えなくなってしまった。皆さんがそれをする時、敵が勝利するのですよ。今朝、準備をしていた時に思い出したのが、箴言でした。このような言葉です。

**“知恵のある人は、多くの魂をとらえる。” (箴言 11:30 共同訳)**

よく考えてみてください。

救いのABCをお伝えします。



**A=Admit/認める、Acknowledge/認識する**

聖なる神の前で、自分が罪を犯した事を認識するのです。ローマ書にはこう書いてあります。

“「義人はいない。ひとりもない。」 (ローマ 3:10)

唯一、イエス・キリストだけが、完璧に正しく生きました。ローマ 3:23 にはこうあります。

“すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることが出来ず、” (ローマ 3:23)

ローマ書 6:23 にはこうあります。

“罪から来る報酬は死です。”

これは死刑宣告です。だから、イエスは私たちの身代わりに、死刑を受けて死ぬために来られたのです。これが良い知らせです。

“しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。” (ローマ 6:23)

### **B=Believe/信じる**

Bは、イエス・キリストが主であり、彼は十字架にかかって死に、葬られ、死からよみがえったと、心で信じる。ローマ 10:9-10 にはこうあります。

“なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。” (ローマ 10:9-10)

### **C=Call/呼び求める、Confess/告白する**

最後に、主の御名を「呼び求める」。ローマ書にはこうもあります。

“なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で、神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。” (ローマ 10:9-10)

ローマ 10:13 にはこうあります。これで契約成立を言わせていただきます。

“「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」” (ローマ 10:13)

最後に、エペソ人への手紙 2:8-9 には、こうあります。

“あなたがたは、恵のゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。行いによるものではありません。誰も誇ることはないためです。” (エペソ 2:8-9)

私たちに出来ることなど、何もありません。全て、成し遂げられたのです。「完了した」とイエスは言いました。彼が、私たちのために私たちの代わりに、行ってくださった。だから私たちは、今日聖餐に与り、それを祝うのです。

祈りましょう。

天のお父様。あなたに感謝します。子供にでもわかる、簡単な福音に感謝します。あなたは福音を、こんなにも簡単にしてくださいました。主よ。それ以上に、あの日あの十字架に、主ご自身がかかってくださった事に感謝します。私たちの死刑の報いを受けてくださいました。私たちの罪を、あなたが担ってくださいました。私たちの罪の赦しの為に、あなたの血を流してくださいました。その為に、私たちに永遠のいのちが与えられたのです。主よ。感謝します。あなたを心から愛します。イエスの御名によって。アーメン。

## 聖餐式

ルカの福音書 22 章には、私たちが最後の晩餐と呼ぶ場面で、私たちに聖餐を行うように命じています。聖霊に満たされてルカが記しています。

“さて時間になって、イエスは食卓に着かれ、使徒たちもイエスと一緒に席についた。イエスは言われた。「わたしは、苦しみを受ける前に、あなたがたと一緒に、この過ぎ越しの食事をすることをどんなに望んでいたことか。あなたがたに言いますが、過ぎ越しが神の国において成就するまでは、わたしはもはや二度と過ぎ越しの食事をすることはありません。」そしてイエスは、杯を取り、感謝をささげて後、言われた。「これを取って、互いに分けて飲みなさい。あなたがたに言いますが、今から、神の国が来る時まで、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」それから、パンを取り、感謝をささげてから、裂いて弟子たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与える、わたしの体です。わたしを覚えてこれを行いなさい。」” (ルカ 22:14-19)

今朝の祈禱会で話していたのは、中東文化において、祝宴がとても重要であるという事です。それはイエスの時代には確実にそうですが、現代でも同じなのです。それが、現代の我々の文化では、一緒にパンを裂く事が、どれほど失われてしまったか。統計を見ると、とても興味深いのですが、家族と一緒に座って食事をすることがなくなっているのです。それで思い出したのは、ある箴言です。これは文面通りではありませんが、不機嫌で、文句ばかり言っている妻について、

「争い好きな女と、プライムリブを食べるよりは…」  
これは文面通りではありませんよ？私はプライムリブが大好きで…。  
「屋根の片隅で、パンくずを食べている方が良い。」 (箴言 21:9)

これは、実に生理学的に、さらに言えば霊的にも、大きく関連している事にお気づきですか？一緒に食事をしているというのは、とても親密な事なのです。前回のクリスマスの事を、昨夜私は考えていたのです。誰かと食卓を囲んで、パンを裂き、食べるというのは、とても親しい間での事です。少なくとも、私たちにとってはそうなのです。中東では、親族の確執は、祝宴を囲んで解決されます。これは、実際に私の母方の親戚の間で起こったことですが、親戚の内、2人の間に確執が起きて、それが7年続いたのです。この7年にどんな意味があるのか私には分かりませんが、とにかく、7年間彼らは口もきかなかったのです。そしてついに「この親族の確執も、そろそろ和解の時だろう」と言うので、彼らは大きな祝宴を開きました。それが、私の母や祖母や全員が、半年もかけて、この祝宴の準備をしたのです。みんなと一緒に食卓につき、一緒に食卓でパンを裂いて、確執を終わらせるのです。このように、誰かと一緒に食事をする事で、大きな力が働きます。皆さんは、それに気づいておられるかどうか、分かりませんが。

聖書預言の文脈から、さらに踏み込んで言います。これも今朝の祈禱会で話していたのですが、1993年に当時のビル・クリントン大統領は、ヤーセル・アラファートと、イツハク・ラビーンが、オスロ合意に調印した後、ホワイトハウスの芝生の上で、今でもよく覚えています。とても気まづかったというか、クリントンが彼らに握手を促したのが、ものすごくぎこちなくて、なんというか、こんな風に握手して、取引を成立させたと言いますか。この合意の。しかし、中東では、互いに結ぶこの合意には、なんの意味もないのです。アメリカでは、握手して合意しますが、「それに関して握手しよう。」「わかった!」「取引成立だ」と、合意を成立させます。しかし、中東では握手して成立ではありません  
彼らの合意の方法をご存知ですか？彼らの契約の仕方？彼らは、一緒に食事をするのです。私の人種、アラブ人の文化では、アラブ人の食卓について、一緒に食事をする、彼らは死ぬまで生涯、忠実です。それが、彼らの文化なのです。



この話を、この聖餐の食卓でお話ししている目的は、皆さんももうお気づきでしょう。これは、新しい契約なのです。そして、それは成立したのです。食事を挟んで、血の契約が結ばれたのです。過ぎ越しの祝宴を囲んで、です。そして、私がいつも心配するのは、今日のような日に、車で教会に向かっている時は、いつも主に祈って言うのです。

「主よ。どうか、聖餐式が、ただの“お勤め”とならないようにして下さい。」と。

「第一日曜日だから、ただこれを行うのだ。」「また、牧師が長々と話すぞ」「また、いつも以上に長時間座る羽目になる。」というようには、ならないように。

私が祈り願うのは、私たちが聖餐の食卓に与る時は、いつも、この食事、共に裂かれたパンを通して、成立した契約を、しっかりと思い出す事です。では、一緒にパンをいただきますよ。

主よ。ありがとうございます。私たちが、あなたを覚えて、これが行えるようにしてくださり、ありがとうございます。主よ。この新しい契約に感謝します。私たちはもはや、あなたの敵対者でもなく、あなたとの確執ありません。私たちは、あなたと共に和解しました。それは、あなたが私たちの為にして下さった事の為です。主よ。どれほど感謝しても感謝しきれません。そして主よ。私たちも、その日、小羊の婚宴で、あなたと食卓を共にするのを心待ちにしています。これが、成就されるその日まで。そして、今は表す事が出来ない気持ちを、永遠をかけて、あなたに伝えます。主よ、感謝します。

ルカは続けて書いています。

“食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約です。」” (ルカ 22:20)

ふと思ったのですが、主からのことばだと思うので、もう少しお付き合いください。旧約聖書では、契約をする時は、動物を連れてきて、それを切り裂きます。ものすごく血生臭い話ですが、両者がその血の中、動物の間を歩き、そして言うのです。「もし、私がこの契約を破ったなら、これらの動物に行われた事が、私の身にも起こるように。」当時、組織的な弁護士はそれほどいませんでした。これが結構な抑止力となっていたからです。そして、ここから「CUT the deal (契約を結ぶ)」という表現が来ているのです。これは、創世記で契約を結んだところから来ています。それは、神がアブラハムと契約を結んだ場面にはっきりと記されています。(創世記 15 章)

アブラハムは、神と契約していない事に注目してください。なぜだと思いませんか？これは本当に興味深く、ワクワクしますよ。アブラハムは、動物を切り裂き、契約を結ぶのを待っていました。まさに、アブラハム契約が結ばれようとしている場面です。そして、神が下りて来られて、切り裂かれた動物の間を歩かれる前に、アブラハムは深く眠らされたのです。そして、神が動物の間を歩かれ、アブラハムと契約を結ばれたのです。彼が眠っている間に、です。ものすごく濃縮してお伝えしていますが、アブラハムは目を覚まして言います。「なんと、私は、全行程の間眠ってしまっていたなんて！」そこで、神はこう言うのです。「いや、わたしが眠らせたのだよ。訳を知りたいか？それは、あなたには、この契約を守ることはできないからだ。あなたに守る事の出来ない契約を、あなたに調印させるような事はしない。これは、わたしがあなたと結ぶ契約であって、あなたがわたしと結ぶのではない。これは、わたしの契約だ。あなたが調印する必要はない。わたしが調印する。わたしがあなたと契約を結ぶ。わたしは、絶対に契約を破らないからだ。わたしには、契約を破る事は不可能だ。」

次に、イエスがこの杯を手にした時、ちなみに、彼らは皆、同じ1つの杯で飲み、同じパンを食べたのです。あなたの中にあるものが、私の中にもある、という考えだからです。2人は1つなのです。契約です。これはまた別の機会に、別の時にお話ししますが、結婚の契りでも同じです。だから、イエスが「これは血による新しい契約だ」と言われた時、彼が言っておられるのは、「神が、あなた方と契約を結んでおられる。これは新しい契約の杯だ。」という事です。あなた方が契約を結ぶのではない。あなたに出来る事は、何一つなく、あなたのために、もうすでに成されているのです。

その契約とは何ですか？聖書にはこう書かれています。

“血を注ぎだすことがなければ、罪の赦しはないのです。” (ヘブル 9:22)

旧約では、ただ覆うだけだったのです。ヘブル語で「コファー」。しかし新約では完全に取り除かれます。「東が西から遠いように、あなたがたの罪をもう決して思い出さない。」 (ヘブル 8:12) これが、新約の血です。これを、私たちは今日、記念して祝っているのです。一緒にいただきましょう。

主よ。感謝します。私たちが、あなたと共に頂く日に比べると、これはほんの一部に過ぎず、比べ物になりません。主よ。その日が本当に待ち遠しいです。主よ。早く来てください。私たちも、これがついに最終的に成就され、あなたと共にいただく日を、心から熱心に待ち望んでいます。マラナタ！主、イエス様、早く来てください。イエスの御名によって、祈ります。アーメン。

このメッセージはカルバリーチャペル カネオへの JD ファラグ牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、Calvary Chapel Kaneohe (英語)、「DIVINE US」(日本語)を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞かざらば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」  
ヘブル 4:7

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>  
Calvary Chapel Kaneohe  
47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii  
訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>  
筆記 by まい